

# みんなのひろば

## にしお's Culture カルチャー



### 一色高校和太鼓部

#### いっしき

#### 太鼓で伝える心の強さ

同好会として発足し、今年で18年目。専門指導員として生徒たちを指導する山本考一さん（熱池町）は「同好会が始まったころは、演劇部が使う体育館の舞台袖でタイヤを叩いて練習していた。1人、また1人と会員が辞めてしまい、最後まで残ったのは1年生1人だった」と当時の苦労を語ります。1年にして同好会の存続が危ぶまれますが、2年目に新たに3人が加入し活動を継続します。その年の文化祭で4人になった同好会の演奏を披露すると大好評。ここから同好会の活動は広がり始め、地域の福祉施設や保育園で演奏するようになります。最後まで辞めずに残っていた1年生が3年生になるとタイミングで正式に部活動として認められました。「人前で演奏する機会が増えると生徒もやる気になる」と山本さん。部員は現在3年生4人、2年生8人、1年生3

ビリと揺れるほど大きな太鼓の音と威勢のいい掛け声。一色高校和太鼓部「いっしき」の練習が始まると、静かだった体育館に心臓の鼓動のような力強い音が響きます。

#### 一色高校和太鼓部

は平成16年に同好会として発足し、今年で18年目。専門指導員として生徒たちを指導する山本考一さん（熱池町）は「同好会が始まったころは、演劇部が使う体育館の舞台袖でタイヤを叩いて練習していた。1人、また1人と会員が辞めてしまい、最後まで残ったのは1年生1人だった」と当時の苦労を語ります。1年にして同好会の存続が危ぶまれますが、2年目に新たに3人が加入し活動を継続します。その年の文化祭で4人になった同好会の演奏を披露すると大好評。ここから同好会の活動は広がり始め、地域の福祉施設や保育園で演奏するようになります。最後まで辞めずに残っていた1年生が3年生になるとタイミングで正式に部活動として認められました。「人前で演奏する機会が増えると生徒もやる気になる」と山本さん。部員は現在3年生4人、2年生8人、1年生3

人の15人。昨年から今年にかけては普段通り活動できない期間もありましたが、厳しい状況だからこそ、地域に元気を届けようと練習に励んでいます。

部長の藤井星凪さん（吉良町）は中学1年生から地域の祭り太鼓を教わっていたこともあり、和太鼓部へ入部。「太鼓の演奏をしていると自分自身が元気になるし、聞いてくれる人達に活気を与えることができる所以楽しい」と笑顔で語ります。曲は先輩が太鼓を叩く姿や動画を見て覚え、練習で一曲演奏し終えるごとに反省点を互いに厳しく指摘します。この経験を通して生徒たちは精神的に強くなり、その強さが太鼓の音に表れます。

地域に根付いた活動を続ける一色高校和太鼓部「いっしき」は、これからも力強い太鼓の音で私たちに元気と笑顔を届けてくれます。

（斎藤泰二）

一色高校和太鼓部「いっしき」  
第15回演奏会

整理券 3月1日(月)～10日(水)に一  
色町公民館で配布

時間 3月21日(日) ①午前10時 ②午後1時30分

場所 一色町公民館